

第3期経営改革実施計画書

団体名	公益財団法人 金沢芸術創造財団		計画期間	令和元年度 ～ 令和5年度	
設立年月日	平成5年11月8日	基本財産	40,000 千円	市出資額	40,000 千円
	[新公益法人への移行] 平成23年4月1日			市出資割合	100 %
設立意義・経緯	金沢市が設置する歌劇座などホールの効率的な運営と利用者へのサービス向上を目的として平成5年に(財)金沢市公共ホール運営財団として発足。平成12年に芸術文化のさらなる発展のため(財)金沢卯辰山工芸工房と統合し、(財)金沢市文化創造財団として組織を拡充し、さらに、金沢21世紀美術館の管理運営を受託するに当たり、平成15年に(財)金沢芸術創造財団と改称。平成23年に公益財団法人へ移行した。				
設立目的	この法人は、金沢市における芸術文化の創造に関する事業を積極的に企画実施し、市民の生涯にわたる芸術文化の土壌を醸成することにより、芸術文化の振興に寄与することを目的とする。				
定款で定める公益目的事業等	(1) 芸術文化の創造に関する事業の企画及び実施に関すること (2) 市民が行う芸術文化活動に対する助言及び指導に関すること (3) 芸術文化関係施設の管理運営の受託に関すること (4) その他公益目的を達成するために必要な事業				
所在地	金沢市広坂1-9-15		所管課	文化スポーツ局文化施設課	
代表者職氏名	理事長 宮本 伸一	ホームページアドレス	https://www.kanazawa-arts.or.jp/		
設立主体	金沢市	設立根拠	公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律に基づく公益財団法人		

これまでの改革の成果	<ol style="list-style-type: none"> 芸術創造事業の拡充による入館者等の増 <ul style="list-style-type: none"> 新幹線開業や観光施策とのマッチングもあり、入館者数の大幅な増加 (21世紀美術館、H23→H28：149万人→255万人、106万人増(171%)、21美以外の施設は、H23→H28：85万人→85万人、100%を維持) 自主事業参加人数 (H23→H24～H28：8,700人→12,632人(平均)) ホームページのリニューアル (H25実施) 財団経営の自立性の確保 <ul style="list-style-type: none"> 利用料金制度、定額交付金制度の導入を見据え、事務的経費のさらなる効率化を進めた結果、指定管理費、運営費補助において、一定の剰余を得た。 (H24～H28、剰余額 年平均29,413千円、剰余分は精算し、市に戻した。) 職員体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> プロパー職員の増 (H23→H28：51人→52人)、計画実施前のH23にアートホールの指定管理受託等により、プロパー職員の増 (H22→H23：4人増)があったため、本計画期間においては1名の増にとどまった。 職員の専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> 職場内研修や市職員研修への派遣回数増 (H23→H28：8回→23回) 文化庁、全国公立文化施設協会等の支援制度を利用し、派遣を行った。
直面する課題	<ol style="list-style-type: none"> 芸術創造事業の拡充による入館者等の増 <ul style="list-style-type: none"> 21世紀美術館は、急激な来館者増のため、トイレ等の設備や人員配置が追いつかず、また作品展示や鑑賞の環境が著しく劣化するなど、ホスピタリティが低下する状況にある。 各施設の役割、個性を活かした活用方法を再認識し、引き続き確かな運営をする必要がある。 広報活動はインターネット環境を利用し、即時性のある活動としなければならない。 財団経営の自立性の確保 <ul style="list-style-type: none"> 利用料金制度、定額交付金制度がH30から導入されたことから、収益(利用料金、事業収入)の確保と、維持管理業務を適切に執行することにより支出の適正化を図り、財政面での自立性を確保することが必要である。 職員体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> 計画的な市派遣職員の引き上げ及びプロパー職員の採用、また、プロパー職員の主要ポストへの配置を進めるとともに、職員の専門性や職務内容に応じた働き方の見直しや、人事給与体系の確立が必要である。 職員の専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> 各職能に必要な研修体系を整備し、計画的にこれを進めることで更なる職務能力の向上に努め、事業の質、効率の向上に結び付ける。
改革の基本的方向性	指定管理者として、設置目的に沿った魅力的な芸術文化事業の確実な実施に努めるとともに利用者サービスの向上を図る。そのために利用料金収入と必要な各種財源の確保に努め、経営の安定化を図る。また、財団職員の職務能力、専門性の向上に努め、人事面においても自立性を高めていく。

経営目標	<p>1 芸術文化による地域創生・創造の拠点となる 各施設の設置目的に基づき、施設ごとの機能、特徴を活かしながら、各種芸術団体や内外の関連機関と連携した芸術文化活動を推進することにより地域の活性化を図るとともに、将来の芸術文化の担い手育成・交流を行うなど、裾野拡大も図っていく。</p> <p>2 施設の適正管理とサービスの向上を図る 施設の適正管理に努め、トラブルの未然防止を図るとともに利用者の安全対策に万全を期するものとする。また、サービスの向上に努め、利用者が気持ちよく利用できる施設を目指す。</p> <p>3 経営の安定化と自立性の向上を図る 利用料金制度及び定額交付金制度の円滑な運用に努め、目標利用料金収入を確保するとともに各種財源の拡充を図り、経営の安定化を目指す。また、財団職員の職務能力、専門性の向上に努め、人事面においても自立性を高めていく。</p>
------	---

改革に向けた取組 (令和元年度～令和5年度)	<p>1 芸術文化による地域創生・創造の拠点となる</p> <p>(1) ホールは、主として舞台芸術の鑑賞の場、発表の場として魅力ある運営に努めることを基本とする。歌劇座は、オペラ・ミュージカル等大型舞台芸術公演を充実させ、文化ホールは、ホテル等と連携しコンベンション利用の強化も図ることとし、アートホールは、発表会、練習会場としての利用を促進するなど、ホール3館の規模や立地に応じた活性化を図る。</p> <p>(2) 市民芸術村、湯涌創作の森は、それぞれアクションプラン事業、工房事業の充実を図るとともに市民が芸術文化活動に取り組む場として、裾野拡大から担い手育成につながるように幅広い人材のネットワークが構築されるような運営に努める。</p> <p>(3) 卯辰山工芸工房は、工芸の担い手育成と工芸の魅力発信に努め、クラフト創造都市としての交流拠点を目指す。</p> <p>(4) 21世紀美術館は現代美術を軸に、コレクションの活用にも努め、展覧会、教育普及事業、交流事業により魅力発信と芸術文化に親しむ機会を創出するとともに、地域や他都市との連携を強化し、国際的にも最先端の表現が交流する場としての質を高め、金沢のブランディングに貢献する。また、能楽美術館は、さまざまな切り口による企画展及び体験事業や学習事業により伝統芸能の魅力発信と親しむためのきっかけづくりに努める。</p> <p>(5) パフォーミングアーツについては、財団における関連事業を調整する組織を設け、各事業の方向性を確認するとともに連携を図り、事業効果を高める工夫をしていく。</p> <p>2 施設の適正管理とサービスの向上を図る</p> <p>(1) 各施設の適正管理に努め、とくに利用者の安全管理には万全を期する。</p> <p>(2) 市民芸術村については、円滑な利用者主体の自主運営の維持、向上を図る。</p> <p>(3) 卯辰山工芸工房は、工房設備の適正な維持管理に努め、研修者等の制作環境の向上を図る。</p> <p>(4) 21世紀美術館、能楽美術館、卯辰山工芸工房については、収蔵品の適正な保存管理に努める。</p> <p>(5) 電話対応、窓口対応などあらゆる機会における利用者サービスの向上に努めるとともに、施設の状態に応じて混雑対策や周辺も含めた美化に努め、ホスピタリティの向上を図る。</p> <p>(6) 財団ホームページを始め各種の広報媒体により効果的な広報活動を展開する。</p> <p>3 経営の安定化と自立性の向上を図る</p> <p>(1) 目標利用料金収入の確保及び各種財源の拡充に努めるとともに、効率的な施設運営、管理によりコスト削減を図り、経営の安定化に全力を尽くす。</p> <p>(2) 財団職員の職務能力の向上に努め、主要ポストへの配置を進めるとともに、職員の専門性や職務内容に応じた働き方の見直しや、人事給与体系の確立を目指す。これに併せて、市派遣職員の引き上げ及びプロパー職員の採用を進め、プロパー職員の比率を高めていく。</p>
---------------------------	--

成果指標		計画策定時数値 (平成30年度末)	計画目標値 (令和5年度末)
成果指標 (実施計画の達成度を測るための指標)及び目標値等	生芸術創造の拠点となる地域創	ホール年間平均利用率	64.6%
		指定管理施設(芸術村、湯涌)利用者数	183,938人
		指定管理施設(21美、能楽美術館)利用者数	21美 2,580,591人 能美 38,707人
		自主公演事業入場者数 (自主公演・ナイトミュージアム・ホール公演)	6,871人
		卯辰山工芸工房修了者数	305人
	利用者満足度 (アンケート結果：満足した割合)	ホール 83.4% 芸文施設 89.8%	ホール 85.0% 芸文施設 90.0%
	修繕対応(件数、金額)	H29 258件、21,873千円 H30 212件、16,435千円	270件、22,000千円 (H27～H29平均)
経営安定化と自立性向上	利用料金収入目標達成率	104.6%	105.0%
	自主財源収入金額	78,681千円	80,000千円
	特定費用準備資金積立額(累計)	0円	1億円
	プロパー職員比率 (市派遣職員削減数)	47.7% (市派遣職員 10人)	50.0% (市派遣職員 7人、△3人)